

2015年4月13日(月)  
 メディカル・データ・ビジョン株式会社  
 TEL: 03-5283-6911 (代表)

OTC、H&BC領域分析レポートvol.1  
 「しみ・そばかす領域における疾患患者の実態」

医療情報のネットワーク化を推進するメディカル・データ・ビジョン株式会社(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:岩崎 博之 以下、MDV)は、しみ・そばかす領域における疾患患者の実態についての調査結果を発表いたします。

【サマリ】

しみ・そばかす領域で最も多い疾患は、炎症後色素沈着

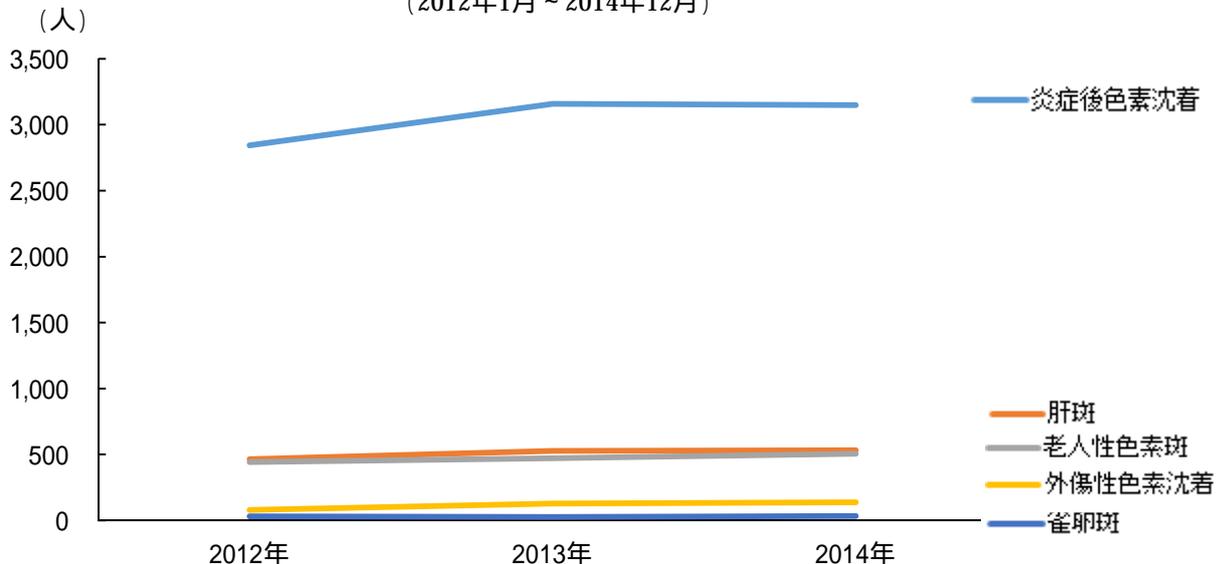
炎症後色素沈着、10代後半から80代前半の女性患者は一定数存在、60代後半以降は男性患者の割合が増加

炎症後色素沈着患者の併病は、湿疹、便秘症、腰痛症

【しみ・そばかす領域で最も多い疾患は、炎症後色素沈着】

まず、2012年1月から2014年12月における、しみ・そばかす領域における疾患患者をみると、炎症後色素沈着が圧倒的に多い結果となり、次に肝斑、老人性色素斑、外傷性色素沈着、雀卵斑と続く結果となりました。

【しみ・そばかす領域 上位5疾患 患者数推移】  
 (2012年1月～2014年12月)

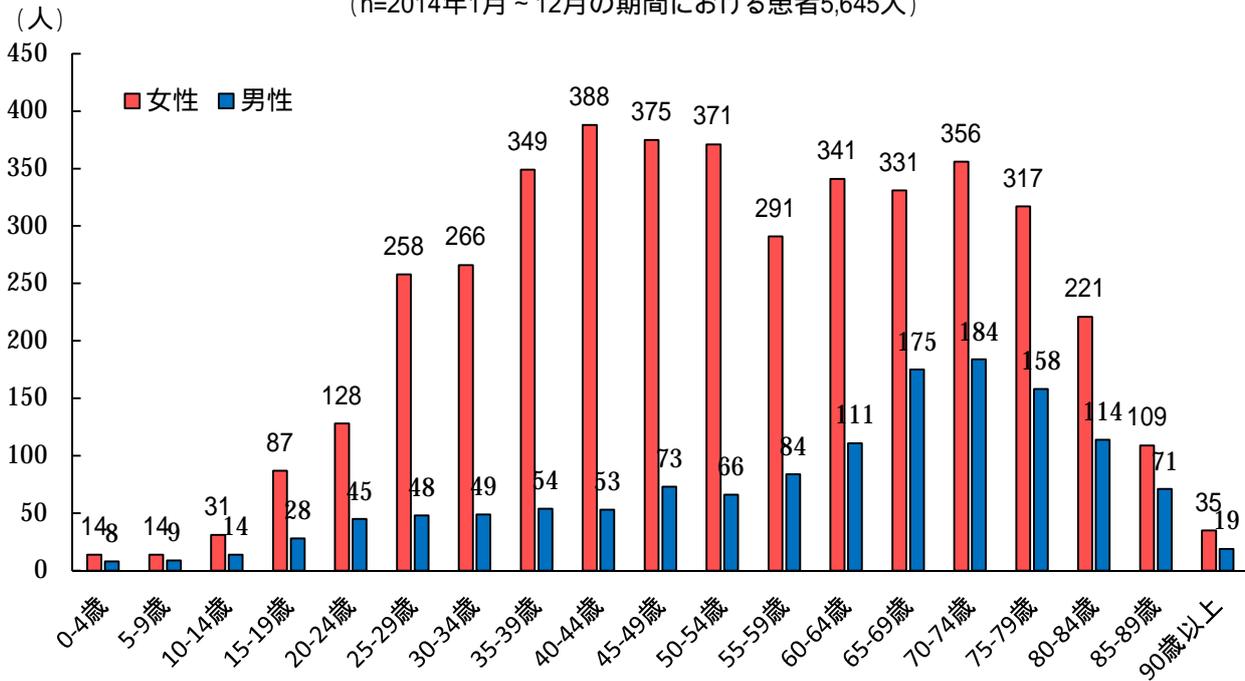


	2012年	2013年	2014年
炎症後色素沈着	2,843	3,159	3,149
肝斑	464	528	532
老人性色素斑	444	472	506
外傷性色素沈着	79	128	139
雀卵斑	31	27	33

**【炎症後色素沈着、10代後半から80代前半の女性患者は一定数存在、60代後半以降は男性患者の割合が増加】**

次に、しみ・そばかす領域で圧倒的な患者数を誇る炎症後色素沈着の患者属性を見てみます。全体的には女性が圧倒的に多く、増加傾向がみられる10代後半から80代前半まで一定の女性患者がいることが分かります。また、60代後半以降は、男性の患者割合が大きくなってるのが特徴です。

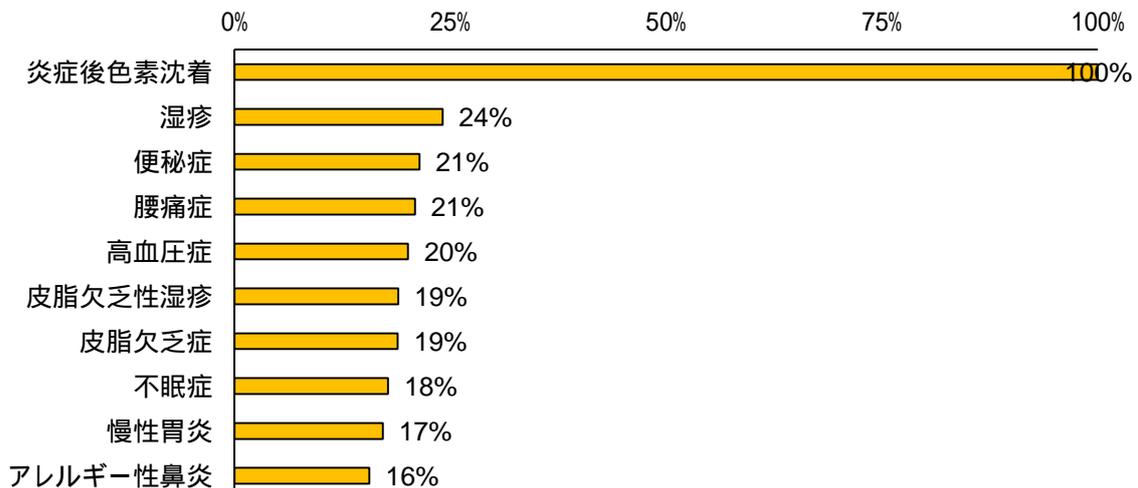
【炎症後色素沈着 属性分析】  
(n=2014年1月～12月の期間における患者5,645人)



**【炎症後色素沈着患者の併病は、湿疹、便秘症、腰痛症】**

最後に、炎症後色素沈着患者の併病状況を見てみると(炎症後色素沈着を100とした場合)、湿疹、便秘症、腰痛症を併発している患者がそれぞれ20%以上存在するほか、不眠症や慢性胃炎を併発している患者も多いことが分かります。

【炎症後色素沈着 併病状況】  
(n=2014年1月～12月の期間における患者5,645人)



【調査概要】

調査手法: 当社が保有する「診療データベース」より抽出分析

調査対象: 二次利用の許諾を得た176病院の急性期病院(がん拠点病院77病院を含む)のうち、調査対象期間のデータがすべてそろっている74病院、約368万人

調査期間: 2012年1月～2014年12月

傷病定義: 国際疾病分類(ICD -10)コードの「皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)」に従属するL810(炎症後色素沈着)、L811(肝斑)、L812(雀卵斑)に関連する標準病名をH&BC領域の「しみ・そばかす群」の傷病定義とした(当社独自定義)